



社団法人

海外と文化を交流する会

(社) 海外と文化を交流する会会報

2004年9月発行(3ヵ月1回発行)

第24号

”知と心”の繋がりに文化の原点を求めて

日本を理解し日本で学ぶ留学生への支援 貧しい国々での医療活動を支援 各国大使館との協力などによる文化講演会の主催

事務局 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-27-6 パイナル内 TEL&FAX 03-3370-7654

巻頭詩

一ばんぼし

まど・みちお(詩人・児童文学者)

まど・みちお：明治42年山口県生まれ。台北工業卒。国際的な評価も高く、「アンデルセン賞」その他数多くの賞を受賞。著書に「ぞうさん」(ぞうさん ぞうさん お鼻が長いのね……)や、「まど・みちお詩集」「宇宙のうた」ほか多数。動物に関する詩20編は美智子皇后が英訳するなどで、話題になりました。掲載の詩は、作者の快諾を得て転載しています。

ひろい ひろい そらの なか
一ばんぼしは どこかしら

一ばんぼしは もう とうに
あたしを みつけて まってるのに

一ばんぼしの まつげは もう
あたしのほほに さわるのに

ひろい ひろい そらの なか
一ばんぼしは どこかしら



まど・みちお少年詩集『くまさん』童話屋より カット/松岡裕子

寄稿

戦後 59 年の出会いと交流

伊吹由歌子（海外と文化を交流する会会友・元学習院女子高等科非常勤講師）

最近、素敵なおじいさま方とお付き合いが多い。

始まりは 2000 年の夏。保土ヶ谷にある横浜英連邦戦死者墓地での追悼礼拝に出席した。8 月の第一土曜、毎年行われるこの会は、3 人の日本人男性が発起人で 10 年以上続いている。この墓地に眠る 1873 人は元英連邦 6 カ国の出身者を中心に、多くが 20 代の若者である。

戦時中、日本各地で強制労働に従事していた連合軍捕虜 35000 人のうち、3500 人は故国に帰る願いむなく日本で亡くなった。（米、蘭の両国は死者を自国へ移送する。）この年のスピーカーだったレスター・テニー博士は米国人。マッカーサーの作戦によるバターン半島攻防の 5 ヶ月近い激戦に、本国からの補給は皆無だった。1942 年 4 月 8 日全軍降伏、死の行進、収容所、ゲリラ生活、拷問を生き延びた後日本に輸送され、大牟田の炭坑で労働という 3 年半の捕虜体験を語った。

高校で英語を教えていた私は、彼と文通をはじめ、当日の講演を抜粋して生徒たちと読んだのち、25 人の彼女たちとメールによる交流をしてもらった。ひとりの生徒はこう書いた。

I feel very ashamed that I am the same Japanese as the soldiers who treated you terribly. I couldn't read the script calmly, because what you shared with us was so realistic and upsetting. But I shouldn't turn my back to the truth. Facing the fact and keeping it in mind is what I can do for the people who experienced the tragedy.

テニーさんはひとりひとりに返事を書いてくれた。

War is awful, people die, young people. Older people are in the back telling the young men what to do. We must all work toward peace and a happy life. In addition we must respect other nations for their right to do those things they feel is correct for them. Religion has always been a reason for fighting only because we don't respect other people's views of religious freedom.

このときの経験を彼は大いに喜んで翌年にはご夫妻を日本に招聘し、多勢の協力者を得て、13 の会場で若いひとたちと会うことができた。英連邦墓地に近い瀬戸ヶ谷小学校では、生徒のひとりがこのような感想を書いてくれた。

テニーさんてどんな人だろう。と思いながら、拍手をしていた。とってもやさしそうな人だった。もう、八十才を過ぎていらっしゃるというのに、私たちにまけないぐらい、とっても元気だった。話を聞いていると、「もうやめて！この先は話さないで！」と思う所がいくつもあった。昔の日本人がこんなにひどいことをしていたとは、思ってもいなかった。（中略）ずっと心の支えになっていた奥さんも、他の人と結婚してしまった。戦死したと思うのも、あたりまえだと思う。でも、テニーさんはどんなにつらかっただろうと思うと悲しくなってくる。心の支えになっていた奥さんに、お礼を言いに行ったときのテニーさんは、とっても勇気がある

と思う。(中略)そしてコミュニケーション。平和を願うテニーさんの気持ちが伝わってきた。

インターネットの普及により、海をこえて対話と和解、友情への思いを伝えあう道が容易になった。戦時の体験を乗り越え共に平和への道を歩もうとする者たちがどこの国にもいる。今年4月と8月に、オーストラリアと英国から計7人の元捕虜が家族たちと日本を再訪してきた。自分のところに打ち勝って彼らがまた日本へ、日本人に会いにきてくれることに感謝のほかはなく、挑戦者としての魅力がある。

彼らはまず墓地を訪れ、友の墓を見出してその死のさまをこもごも語る。私のつらなる捕虜問題研究会は、死亡者の名簿を整備し、手分けして電子ファイルに打ち込む作業をした。訪問者の東京滞在中は、私の元生徒たちや卒論に捕虜問題を取り上げる学生など若い世代も駆けつけてくれる。

一方、直江津、武生、福岡、生野など彼らの収容所地元の方たちが、心温まる歓迎をしてくださった。終戦の日のあと、地元民の家庭に捕虜たちが来たという交流もあったようで、昔の写真を手にもった5歳だった婦人が墓地に会いにきてくれた例もある。

一回の出会いで彼らのところが完全に癒されるとは思えないが、しかし彼らは口々に喜びを語る。人間性を無視し尊厳を蹂躪する日本軍の、ときとして民間人の扱いにより、若者が受けたところの傷を癒すのは当事者との「対話」であろう。日本でも元シベリア抑留者の方たちが国の正当な認識を求めている。現地に果てた友へ「このままにはしないよ」と呼びかけつつ頑張る彼らもまた素敵なのである。ご関心をもっていただけますように。

ご参考：

捕虜問題研究会ホームページ：<http://homepage3.nifty.com/pow-j>

シベリア立法推進会議：有光 健(事務局)

.....cfrtyo@aol.com Fax03(3237)0287

.....Tel03(3237)0217/080-5079-5461

〒102-0074 千代田区九段南 2-2-7-601

「バターン 遠いみちのりの先に」 梨の木舎 ￥2,700 レスター・テニー著

訳：伊吹由歌子・奥田愛子・一柳由美子・古庄信

「連合軍捕虜の墓碑銘」 笹本妙子著 草の根出版会 ￥2,700

上記2冊は伊吹へおもうしつけくされば送料込み ￥2500

「連合軍捕虜補給作戦」 奥住喜住・工藤洋三・福林徹 著 私費出版 ￥2,500

米軍資料による戦後食糧投下用の写真と説明(翻訳)・日本の全収容所の所在地と戦犯処刑者などをふくむ説明 申し込み：福林徹 0771-24-6191(fax 共)

友の輪がパりに拡がって

館野富士子(東京YWCA 非常勤講師)

「類は友を呼ぶ」というが、わたしの周囲にはフランス語を学ぶ友人が多い。その一人に誘われ

て、或る夏、彼女の古い友人でパリ近郊に住むフランス人の家庭に3週間滞在させてもらったことがある。気のいい家族は、未知の私まで、まるで親類のひとりであるかのように歓待してくれて恐縮したが、これがきっかけになって、その後もお邪魔することになるとは最初は思いもしなかった。

エール・フランスを退役した60代のD夫妻には3人の子供があり、3人ともすでに家庭を持ち、両親の近くに住んでいるが、週末にはそれぞれが子供を連れて両親を訪れ、3代で食事を共にしている。私たちが滞在することになった第1日目も全員集まってくれて、面識を得た。日本びいきの父親の影響なのか子供たちも日本に関心があり、特に長男は盆栽が趣味で、柔道の道場にも通っているそうである。たまたま、オリンピックの時期で、テレビで柔道の試合を見ていたこの長男が突然「有効？」とどなったときに、私は仰天、てっきり日本語が話せるのだと思ったほど自然な日本語であった。実は彼が知っている日本語は柔道の手のみであったのだが……。

マダムは一番幼い8か月になる孫の女の子を膝に乗せ、さも愛おしそうに”Ton papa est français.Tu es française.Fujiko est japonaise.Tu es mon tr sor.”と歯切れのよいゆったりとした美しい声で、客人を幼な子にも紹介しながら言葉を教えていたが、その姿は、言語の教師の一端をになう私にとって、まさに外国人のこどもの言語習得の見事な教育現場に思いがけなく立ち会えた幸運な喜びの場面であった。私たちには厄介なフランス語の男性形、女性形を、現地の子供は赤ん坊の時からこうやってダイレクトに覚えていくのだと、当たり前といえば当たりのことに極めて素直に納得したのである。

出発前に、この家族の好みを熟知している同行の友人の知恵を借りながら、彼らに喜んでもらえそうなおみやげを二人で心を込めて選んだ。「さしみ」が好物という家族のために日本橋「木屋」の刺身包丁、醤油にわさび、日本酒、料理自慢の主人には、昔、商店の小僧さんなどが着けていた紺色の地厚な生地に肉太の筆字で大きく「一番」と色抜きになっているイキな「前垂れ」と「下駄」などであった。土産物を心底喜んでくれた主人のDは顔を紅潮させながら、しばし無言。家族も含めたその喜びようは私たちの期待を超えた。

翌日の夕食は、わさびを添えた「さしみ」から。週3回立つという朝市に誘われて、馴染みの魚屋へ直行したが、どうやら「さしみ」に関しては魚屋より主人の方が詳しいようだ。「さしみの本場のジャポンからの客だ」と私たちは紹介されて、はにかんだが、彼は複数の生きのいい白身とまぐろをかなり大量に仕込み、肉、チーズ、その他も共々、夜に備えた。夏の日暮れは遅い。7時頃にみんなで庭にテーブル・セッティングをすると、芝居気たっぷりのDが前垂れをしめて包丁を持ち、下駄ばきで現れた。前垂れの「一番」の文字が「私はNo.1シェフ」を主張していて、みんなの納得と笑いを誘う。私たちへの無言のお礼のパフォーマンスが心に沁みる。彼は気に入った刺身包丁に一礼すると、すばやく鮮やかな包丁さばきで「さしみ作り」を開始。年季の入った板前顔負けの腕前にもっとも驚いたのは新顔の私であつたらう。大皿のサラダと数種類のチーズとワインにステーキに果物。乾杯に始まったディナーは腰の強い議論に支えられて延々3時間。到着早々、溢れんばかりの活気に裏打ちされた幹の太い彼らの暮らしと、確信に満ちた人生観に出会って、私は強烈なパンチを食らった。地下1階、地上2階半のゆったりしたこの自宅も、なんと自分たちの手で10年かけて造ったと聞いたとき、彼らが持つ巨大な排気量に私はうなるばかりであった。

会からの報告 & お知らせ & お願い

秋 11 月 20 日のコンサートはバイオリンの川畠成道さん

2004 年秋のチャリティコンサートは、「奇跡のバイオリニスト、天使のバイオリン・川畠成道さん」に出演をお願いし、快諾をいただきました。欧米マスコミに「気絶しそうに美しい音色」と評される、世界的なバイオリン奏者です。ほかの出演は東京ハルモニア室内オーケストラ、飯靖子（チェンバロ・パイプオルガン）の総勢 11 名。

終演後に、正面入り口で川畠成道さんのサイン会と CD 販売をいたします。

会場：東京・渋谷「青山学院大学ガウチャー記念礼拝堂」

日時：11 月 20 日（土曜日）2 時開演

曲目：ヴィヴァルディ「四季」他

会費：5,000 円（前売り 4,000 円）

お問い合わせ・お申し込み：海外と文化を交流する会

・ &FAX03-3370-6786（午後 6 時～ 9 時・田口）

E-mail : jimukyoku@kaigai -bunka.org

予約：郵便振替「(社) 海外と文化を交流する会 0130-2-366249」にお名前・ご住所を明記していただければ、チケットをお届けします。

会員の皆さまにお願いです。このチャリティコンサートのチラシ & FAX 申込書（同封のものです）をいきつけのレストラン、各地の役所出張所、喫茶店、レコードショップに置いてもらえるようにご依頼くださいませ。事務局までご一報いただければ、チラシをお送りいたします。

会長代行に大谷俊介氏

(社) 海外と文化を交流する会の室井鐵衛会長がすこし体調をくずされていますので、大谷俊介常務理事（電気通信大学レーザー研教授）に会長代行として務めていただきます。大谷さんによるしくお願いするとともに、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

つどい 「留学生との交流」

秋に予定していた「キッチン交流と対話のつどい」は、秋のチャリティコンサートがあるので、2005 年のはじめになりそうです。場所・日時は決まり次第、お知らせします。お問い合わせは、事務局まで FAX か e-mail でどうぞ。ホームページでも発表します。

会員親睦食事会

これまで、会員同士の親睦を深めるといった活動については、すこしお休みをしていましたが、式次第など無関係に、気軽に、気楽に、食事でもしたい、という声があがってきました。そこで会費制で、日時、場所を検討しています。改めてお知らせしますが、お問い合わせは事務局まで。

寄付をいただきました

次の方々から当会へ寄付をいただきました。ありがとうございました。有意義に遣わせていただきます。

佐藤純一さま

総会報告訂正

前号で平成 16 年 5 月 18 日の社団法人海外と文化を交流する会の総会報告をいたしました。いくつかの箇所です。訂正させていただきます。

東京ハルモニア室内	0	0	0	
オーケストラ支援	0	0	0	日本テレマン協会支援

これを次のように訂正いたします。

東京ハルモニア室内オーケストラ支援	0	0	0	
日本テレマン協会支援	0	0	0	

会費納入のお願い

2004 年度の年会費納入をお願い申し上げます。2002 年度 2003 年度の年会費未納の方は、ぜひともご納入ください。高く評価されている当会の活動は、皆さまのご支援あってこそなのです。

郵便振替 00130-2-366249 社団法人海外と文化を交流する会
銀行振込 東京三菱銀行渋谷支店 (普) 2266599 海外と文化を交流する会
会費 10,000 円 (正会員) 5,000 円 (特別賛助会員) 3,000 円 (学生会員)

海外と文化を交流する会事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-27-6 パイビル内
TEL&FAX 03-3370-7654 e-mail:jimukyoku@kaigai-bunka.org
URL://www.kaigai-bunka.org

